

めいが継ぐ留学の夢

1996年9月、米国留学を2日後に控えた上智大4年の小林順子さん(当時21歳)が東京都葛飾区の自宅で殺害、放火された事件は、9日で26年が過ぎた。順子さんが果たせなかった夢を、事件後に生まれためいが実現しようとしている。姉の熊田亜希子さん(51)＝岐阜市＝の長女(22)は今年2月、「海外で働きたい」という順子さんと同じ夢を抱き、米国留学に旅立った。26年前、順子さんが留学先で使うはずだった和英辞典を携えて――。

上智大生殺害26年

「いつか海外を飛び回りたい」。順子さんはそんな未来を3歳上の亜希子さんに語っていた。中学から英語の勉強にのめり込み、毎日のように日付が変わるまで机に向かった。上智大の外国語学部英語学科に進学し、目標だった米国留学をつかみ取った。「国際ジャーナリストになる」という夢に向かって努力を重ねる順子さんが誇らしかった。

留学先の米シアトルへの出発を2日後に控えた98年9月9日、自宅にいた順子さんは何者かによって殺害された。霊安室で眠る順子さんは悲し

げで、無念そうな表情を浮かべていた。自宅は放火されて全焼し、亜希子さんの手元に残ったのは、すでに汚れた数枚の家族写真と、順子さんが高校時代にくれた金色のピアスだけだった。

それから26年。事件後に生まれた亜希子さんの長女は22歳となり、順子さんが生きた日々を超えた。

長女は大学受験を控えた頃、亜希子さんに打ち明けた。「いつか海外で仕事したい」。順子さんが抱いていた夢と同じだった。

順子さんの話題は親子の会

形見の辞典 携え渡米

話にたびたび登場した。「順子おぼちゃんも留学しようとしていたんだね」「順子がいたら英語を教えてもらえたのね」。英語の勉強に励み、留学を夢見る長女が、在りし日の妹の姿と重なった。

長女は留学制度がある大学に進み、今年2月から米サンディエゴに留学することが決まった。

渡米の直前、順子さんの父賢二さん(76)は、旅立つ孫娘に1冊の分厚い辞典を手渡した。26年前、米国で使うために順子さんが購入した和英辞典だ。事件前に留学先に送っていた荷物に入っていたもの



小林順子さんが使うはずだった和英辞典。姉の熊田亜希子さん提供



小林順子さん(左)との写真を見る姉の熊田亜希子さん。耳には順子さんからもらった金色のピアスが一枚。岐阜市内で8月、岩崎歩撮影

で、焼けずに残っていた。貴重な遺品として、賢二さんが大切に保管してきた。このまま眠らせておくより、米国で使ってもらった方が順子も喜ぶかもしれない。「順子の分まで頑張ってほしい」。辞典を託した。

留学先に飛び立つ日。賢二さん夫妻と亜希子さんの3人は見送りに行った。

成田空港に着くと、どうしてもあの事件のことが脳裏をよぎった。「順子もこうして送り出してやりたかった」な

ぜ未来を奪われなきやならなかったのだろう。悔しさや喪失感は今も拭えない。ただ、同時に順子さんが進むはずだった道を歩んでくれること、うれしさがこみ上げた。

順子さんの辞典は今も米国でめいっ子のそばにある。「自分が本当にしたいことを見つけてられるように最後まで頑張りな」。留学先の長女は、亜希子さんにそう話したという。

亜希子さんは毎日、心の中で語りかける。「順子、今日も娘を見守っていてね」【岩崎歩】